

## 編集後記

今年の夏のキャンプは、遅々としてはか  
どらなかつた雑誌、ミニコミ等の定期刊行  
物の整理を目的として企てられた。

五月の末にこのキャンプが設定され、六  
月に入ってから準備が始められた。その過  
程で、序文でも触れられているように、セ  
ミナーの企画が付け焼刃的に追加された。  
夏期に、テント生活とセミナー等の多様な  
キャンプをやるうという案は、文献センタ  
ーの家主たる竜さんのもので、センタ―仲  
間の間では「自由学校」とよばれ、話題と  
してはここ二年ほど考えられていた。

しかし、文献センタ―の整理をはじめと  
する諸作業に追われ、なかなか実現する機  
会をつくれずにいたのである。今年もまた  
素通りかな、という状況だったが、キャン  
プ計画の盛り上がりに乗じて、セミナーと  
してキャンプ計画につけ加えたのである。

こうした経過を辿って企画されたセミナ  
ーは、一言にしていえば、失敗であったと  
言える。実際に行なわれたものは、不十分  
なものを含めても三テーマであって、準備

および体勢の欠陥がはっきりと露呈した。

× × ×  
セミナー案として、用意されたテーマを  
参考までに列記してみると、

1. ブルドン（講師・長谷川進）
2. 共同体の試み”土方コミュニケーション”の経  
過と問題点（報告・羽熊直行）
3. 外国のアナキスト諸グループ（報告・  
春木）
4. 日本の闘争図
5. 合同労組について（講師・福田武寿）
6. 評議会運動——その破綻から学ぶもの  
（講師・江口換）
7. 非暴力直接行動トレーニング（講師・  
向井孝）
8. 山鹿泰治の生き方に学ぶ
9. 文献センタ―の活動経過と今後の課題

日本アナキズム研究センター発行

『センター通信』（月刊）

一部五〇円

定期購読者・募集中！

年間六〇〇円

について（報告・奥沢邦成）

(10) アナキズム図書分類案の試み

(11) 富士地区労働運動史

このように、計画されたセミナーの内容、テーマの設定はかなり豊富なものであった。全体の統一はあまり考えず、実現の可能性を基準にこれらのテーマと、その日程を決めたのである。

× × ×

センターの図書整理に関しては、その目標をほぼ達成できたが、やはり準備不足がたたって、そのしわ寄せがセミナーの時間および準備におし寄せ、実現されぬもの、あるいは不十分のままに終えざるを得なくなった。

ただ、沼津の山鹿文庫に移動しての、「非暴力直接行動トレーニング」は、二四名の参加者により、講師・向井孝、トレーナー・高橋三喜子を中心に、にぎやかに取り組まれた。また、向井氏からWRRI（戦争抵抗者インター）について、日本での活動などの話が聞かれたのも有益であった。

キャンプ終了後、セミナーの「報告書」の話がでた。それは、セミナー自体としては成功しなかったが、そのままに一時の単

なる反省にすませると何も残らない、それよりも、いくつかのレポートが手もとに残り、報告できるものがある限り、それらを「報告書」として残す方が、次回のセミナー、あるいは「自由学校」にとって有効である、といった考えであった。同時に、文献センターの活動のアービールという意味も含んでいる。

そして、この報告書は、その提案に基づいて編集が進められた。早い時期に出そうという予定が、やはり一ヶ月以上も遅れてしまった。

報告書の、全体的な統一はセミナーの内容を正直に反映してか、いくつかの文章の羅列に近いものになってしまった。あまり欲を出して、あれもこれも、あややつてこりやつてと言いつつと、編集も遅れる一方なので、まあ、ぎりぎり頑張って編集し終えたところである。

内容、その他に関しては読者の批判を乞いたいと思う。

× × ×

文献センターの建設も、一段階をどうやら終え、次の段階に踏み出そうといった状態となった。長いこと懸案であった、文献

センター通信の定期化も、月刊のペースで取り組まれ始めたし、一時的に比べ活気が感じられる。そして、できるならこの報告書も、次のワンステップのための足掛りとなることを期待したい。（奥沢）

リペーロ

七三年・夏のセミナー報告集

一九七三年十月十日

発行所

日本アナキズム研究センター

静岡県富士宮市杉田二五一

竜 武一郎 気付